

＜教育利用＞ ③ 3年英語科の実践

【ガイドライン】（活用が考えられる例）

④英会話の相手として活用したり、より自然な英語表現への改善や一人一人の興味関心に応じた単語リストや例文リストの作成に活用させること。

【学習テーマ】

憧れの人物を英語で紹介しよう。

【概要】

自分で作成した英作文が意味の通る文であるかどうかChatGPTに直接入力したり、音声入力をしてもらって確かめさせ、訂正が必要な文はどう直せばいいのか提案してもらいました。音声入力をする事により、自分の発音が正しいかどうかをある程度確認できる上、より自然な英語表現を提案してもらうこともできました。

【活用の流れや工夫点、生徒の様子等】

アプリ版のChatGPTでは、音声入力が可能なため、生徒は左側に自分がスピーチするスライドを表示しながら、右側のChatGPTに音声入力をしています。ChatGPTを先生代わりをしてやりとりしたことで、より正確な英作文を基に紹介できていました。これまで、教員が一人一人の原稿を見て、助言をしなければならなかった役割を生成AIが担うことで、教員は支援が必要な生徒により手厚く関わる事が可能になりました。

